

報道関係 各位

2019年4月12日
株式会社日本レースプロモーション

4月20日(土)～21日(日)
「2019 NGK スパークプラグ 鈴鹿 2&4 レース」
2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、4月20日(土)～21日(日)の2日間、三重県鈴鹿市 鈴鹿サーキット国際レーシングコース(1周: 5.807 km)において、「2019 NGK スパークプラグ 鈴鹿 2&4 レース」2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦 を開催いたします。

今シーズンの全日本スーパーフォーミュラ選手権は、新型シャーシ「SF19」の導入やそれに伴うタイヤの変更、2018年シリーズチャンピオンに輝いた山本 尚貴(ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)を含む多くのドライバーの移籍や、国内外からの若手注目ドライバー7名の参戦、そしてオーバーテイクシステムのシステム変更など、新たなスーパーフォーミュラの幕開けにふさわしく、注目ポイントが満載のシーズンとなります。

新型シャーシ「SF19」は、「SF14」のコンセプト「Quick & Light」を踏襲した上で、オーバーテイクし易いマシンとすべく、さらなる空力の見直しを図る一方、2016 FIA の安全基準に対応したマシンの安全性能引き上げと共にドライバーの安全面を考慮しヘイローを導入するなど、エンターテインメントと競技の両立を目指してイタリアのダラーラアウトモビリ社にて設計・製作されました。また、横浜ゴム株式会社が「SF19」用に開発したフロントタイヤは、昨シーズンから 20mm 幅広とし構造自体の変更も施されましたが、それが「SF19」のコーナーリングスピードの速さに起因していることはシーズン前の公式テストで明らかとなりました。

今シーズンシステムを変更したオーバーテイクシステムは、従来の「20 秒×5 回」から、「最大 100 秒の時間制」となります。時間内での使用回数は任意となりますが、次の使用までに 100 秒間のインターバル(使用制限)が生じます。これによりディフェンスでの使用に制限がかかる為、より戦略性の高いバトルが予想されます。

ドライバーラインナップとしては、昨年自身 2 度目のシリーズチャンピオンに輝いた山本 尚貴、最終戦で 0.6 秒の死闘を繰り広げたニック・キャンディ(バンテリン チーム トムス)らは、移籍し新たなチームから参戦。ヨーロッパの F2 や F3 で実績を残してきた、アーテム・マルケロフ(ウオモ スノコ チーム ルマン)、トリストラン・シャルパンティエ(リアル レーシング)、ルーカス・アウアー(ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク)、ハリソン・ニューウェイ(ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク)、アレックス・パロウ(ティーシーエス・ナカジマ・レーシング)の海外勢に加え、坪井 翔(ジェームス ピーエムユーセルモインギング)、牧野 任祐(ティーシーエス・ナカジマ・レーシング)ら日本勢を含め7名の有力な新人が参戦。新人らを迎え撃つ、石浦 宏明(ジェームス ピーエムユーセルモインギング)、中嶋 一貴(バンテリン チーム トムス)らの実力者達は、昨年と同じチームで臨みます。新たな環境の中で体制を整えながら戦う移籍組、スーパーフォーミュラで開花することができるか試される新人組、そして虎視眈々とチャンピオン奪還を狙う実力者達、様々な想いや思惑と実力が交差する今シーズン。昨年から1台増え全 20 名で争われる開幕戦。どのような幕開けとなるのか、ご注目ください。

このように話題の多い今シーズンの全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズを、より多くの方々に楽しんでいただく為、今年も無料全国放送の BS フジにて日曜の決勝レースを全戦放送いたします。また、J SPORTS による予選・決勝中継も、これまで通り放送いたします。

公式予選

Q1 (20分間) 上位12台がQ2に進出。13～20位の順位が確定。

Q2 (7分間) 上位8台がQ3に進出。9～12位の順位が確定。

Q3 (7分間) 1～8位の順位が確定。

・セッションの間のインターバルは各10分

・ノックアウト方式の名称は、予選にて好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

※Q1=ミディアムタイヤのみ使用可能。

※Q2、Q3=ソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使用が可能。

決勝レース

43周 1周 : 5.807km × 43周 = 249.701km

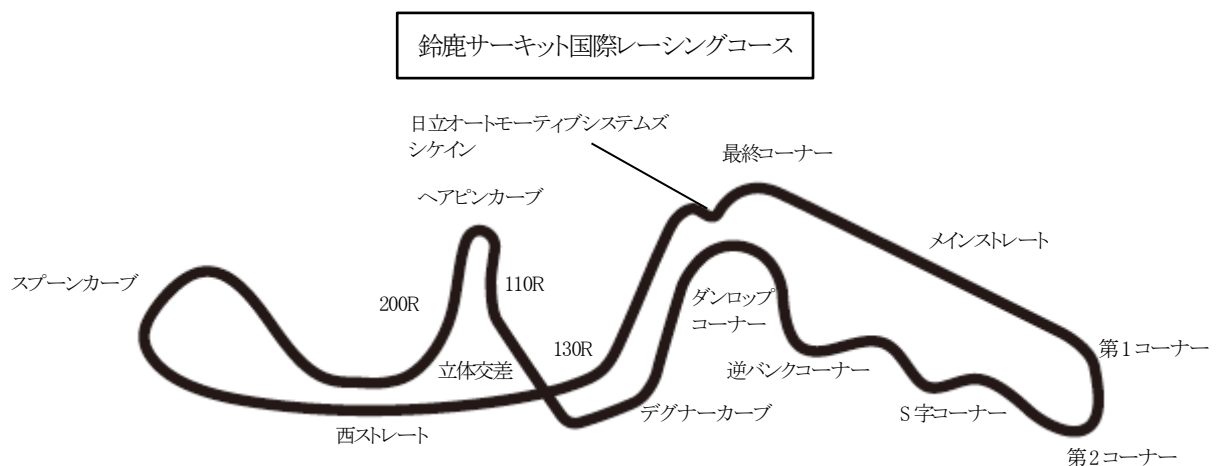
最大レース時間 : 1時間30分

中絶時間を含む最大総レース時間 : 2時間30分

※決勝レースでは、ソフトタイヤ、ミディアムタイヤ、2種類の使用が義務付けられています。

鈴鹿サーキット国際レーシングコースについて

コースは東西に細長く、中間部分の立体交差をはさんで右回りと左回りが入れ替わる、世界的にも珍しい8の字形のレイアウトとなっています。コース全長は5.807kmで、日本のサーキットの中で最長です。コース幅は10～16m。コーナー数は18。最大高低差は52m。世界の多くのサーキットと比べ摩擦係数の高いアスファルト舗装です。土地の高低差と低速～高速コーナーのバランスが上手く配合されており、難易度が高く走り甲斐のあるコースとして評価されています。



2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦 エントリーリスト

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)	村岡 潔	HONDA/M-TEC HR-417E
5	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	1997/ 1/24	日本/徳島県			
3	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県	KONDO RACING (コンドー レーシング)	近藤 真彦	TOYOTA/TRD Biz-01F
4	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県			
7	アーテム・マルケロフ Artem Markelov	1994/ 9/10	ロシア	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA/TRD Biz-01F
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
15	ダニエル・ティクトウム Daniel Ticktum	1999/ 6/ 8	イギリス	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	中野 信治	HONDA/M-TEC HR-417E
16	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県			
17	トリスダン・シャルパンティエ Tristan Charpentier	2000/ 8/12	フランス	REAL RACING (リアル レーシング)	金石 勝智	HONDA/M-TEC HR-417E
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	carrozzeria Team KCMG (カロッツェリア チーム ケーシーエムジー)	松田 次生	TOYOTA/TRD Biz-01F
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	星野 一義	TOYOTA/TRD Biz-01F
20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1994/ 3/ 7	日本/広島県			
36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	舘 信秀	TOYOTA/TRD Biz-01F
37	ニック・キャシディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド			
38	石浦 宏明 Hiroaki Iishiura	1981/ 4/23	日本/東京都	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームス ピーエムユーセルモインギング)	立川 祐路	TOYOTA/TRD Biz-01F
39	坪井 翔 Sho Tsuboi	1995/ 5/21	日本/埼玉県			
50	ルーカス・アウアー Lucas Auer	1994/ 9/11	オーストリア	B-Max Racing with motopark (ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク)	本山 哲	HONDA/M-TEC HR-417E
51	ハリソン・ニューウェイ Harrison Newey	1998/ 7/25	イギリス			
64	アレックス・パロウ Alex Palou	1997/ 4/ 1	スペイン	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマ・レーシング)	中嶋 悟	HONDA/M-TEC HR-417E
65	牧野 任祐 Tadasuke Makino	1997/ 6/28	日本/大阪府			

本田技研工業/M-TEC製エンジン使用チーム:5チーム9台
トヨタ自動車/TRD製エンジン使用チーム:6チーム11台

(車両:SF19、タイヤ:ヨコハマ)

－開催概要－

- 大会名称 : 2019 NGK スパークプラグ 鈴鹿 2&4 レース
2019 年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦
- 開催日程 : 2019年4月20日(土) 公式予選
2019年4月21日(日) 決勝レース
- 開催サーキット : 鈴鹿サーキット国際レーシングコース(1周 5.807km)
- 主催 : グループ・オブ・スピードスポーツ(GSS)
鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
株式会社モビリティランド
- 公認 : 国際自動車連盟(FIA)
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 認定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)
- 後援 : スポーツ庁／観光庁／三重県／鈴鹿市／鈴鹿 F1 日本グランプリ地域活性化協議会／
一般社団法人鈴鹿市観光協会／鈴鹿商工会議所
- 同日開催 : 2019 年 全日本フォーミュラ3選手権 第1戦 & 第2戦
2019 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第2戦(鈴鹿 2&4 レース)

【TV放映】

■ BSフジ『2019スーパーフォーミュラ選手権 第1戦 鈴鹿』

一昨年から無料/全国放送のBSフジでスタートした「決勝レース中継」を今年も放送いたします。今年も昨年までの生放送から決勝レース当日の17時～18時55分という、より視聴者の多い時間帯での録画放送に変更し、レース前の見所・ルール解説、レース終了時の総括、そして表彰式まで、決勝レースの全体像をキチンと視聴者の皆様にご覧いただきます。また、より多くの視聴者が見ることで、新たなファンの開拓が期待されます。

今回の実況は、フジテレビでのモータースポーツ実況経験を持つ塩原恒夫が担当。解説には、鈴木亜久里があたります。また現役ドライバーでもある千代勝正が、ピットレポーターを務めます。

○放送時間 : 2019年4月21日(日) 17:00～18:55

○実況 : 塩原 恒夫

○解説 : 鈴木 亜久里

○ピットレポート : 千代 勝正

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

スーパーフォーミュラの情報番組として昨年新たなスタートを切った当番組。今年も内容を一新、今シーズン国内外から多くの若手ルーキードライバーなど注目のドライバーにフォーカスを当て、彼らにゆかりのある選手や監督をゲストに迎えてお送りします。

本田朋子の進行、乃木坂46の樋口日奈のナレーションは今年も継続。レースのレビューやニュースも含め、よりグレードアップした新生「スーパーフォーミュラGO ON!」にご期待ください。

○放送時間

第1回 : 2019年 4月 12日(金) 23:00～23:55 (再放送 4月 14日(日) 25:00～25:55)

ゲスト : 福住 仁嶺、山本 尚貴、中嶋 悟

第2回 : 2019年 5月 10日(金) 23:00～23:55 (再放送 5月 12日(日) 26:00～26:55)

ゲスト : 未定

○進行 : 本田 朋子

○ナレーター : 樋口 日奈(乃木坂46)

■ J SPORTS『スーパーフォーミュラ 2019』

全7戦の予選と決勝の様様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組も放送します。

放送スケジュールについては、「J SPORTSモータースポーツ」内の「スーパーフォーミュラ」ページか、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」でご確認ください。

第1戦 鈴鹿サーキット

予選 2019年 4月20日(土) 15:30～ J SPORTS 4 <生中継>

決勝 2019年 4月21日(日) 13:30～ J SPORTS 4 <生中継>

【映像の配信】

■ Yahoo! GYAO!

大会終了10日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」でご確認ください。

superformulavideo-YouTube

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【海外配信/放送】

■ motorsport.com (配信)

■ motorsport.tv (放送)

【インターネット/SNS】

■ オフィシャルWEBサイト

<http://superformula.net>

■ 公式LiveTimingアプリ

i OS,Android 対応無料ライブタイミングアプリ「SUPERFORMULA」で検索

■ スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

※公式ハッシュタグ『#sformula』

■ スーパーフォーミュラオフィシャル Twitter

https://twitter.com/SUPER_FORMULA

※公式ハッシュタグ『#sformula』

■ オフィシャル Instagram

https://www.instagram.com/superformula_official

※公式ハッシュタグ『#superformula』

【チケット情報】

●前売観戦券(2日間有効・税込) 遊園地モトピアパスポート1日券付

大人 : 4,000円/中高生:4,000円
小学生 : 3,100円/3歳~未就学児:2,000円
※ 4月19日(金)も入場可

●前売観戦券(2日間有効・税込) レース観戦のみ

中高生 : 1,700円
小学生 : 800円/3歳~未就学児:600円
※ 4月19日(金)も入場可

●グループチケット(2日間有効) 遊園地モトピアパスポート1日券付

3名 : 10,800円 (1名あたり3,600円)
4名 : 13,600円 (1名あたり3,400円)
5名 : 16,000円 (1名あたり3,200円)
※4月19日(金)も入場可
※前売りのみの販売

●パドックパス

中学生以上 : 7,200円/3歳~小学生:1,600円
※別途観戦券が必要です

●ピットウォーク券

中学生以上 : 2,100円(各日)/3歳~小学生:無料
※別途観戦券が必要です

レースチケットのご案内 (<https://www.suzukacircuit.jp/2and4/ticket/>)をご参照ください。

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
株式会社日本レースプロモーション (<http://www.superformula.net/>)
102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-25 平安堂ビル
e-mail:media@superformula.net
Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントリー)、国内外の20名(20台)のドライバー(※1)が転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

(※1)ドライバー:国内:15名、海外:6カ国(ロシア、イギリス、フランス、ニュージーランド、オーストリア、スペイン)7名

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 20 ~ 21	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	250 km
5 / 18 ~ 19	第2戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
6 / 22 ~ 23	第3戦/スポーツランドSUGO	ノックアウト	250 km
7 / 13 ~ 14	第4戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 17 ~ 18	第5戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 28 ~ 29	第6戦/岡山国際サーキット	ノックアウト	250 km
10 / 26 ~ 27	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	250 km

2019年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	pp
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

●ルーキー・オブ・ザ・イヤー：当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。

●チームポイント：各チーム(エントリー)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。

同一チーム(エントリー)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。

チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

3. シリーズ賞典

各レースでの入賞成績に応じて与えられるポイントの合算により、シリーズチャンピオンが決定。ドライバーとチームの2部門に全日本スーパーフォーミュラ選手権のタイトルが懸けられチャンピオン獲得者には下記の賞典が授与される。

- 年間チャンピオンチーム
 - ・経済産業大臣杯
- 年間チャンピオンドライバー
 - ・ドライバーズチャンピオンカップ
 - ・観光庁長官杯(予定)
 - ・自由民主党モータースポーツ振興議員連盟杯
- ルーキー・オブ・ザ・イヤー
 - ・トロフィー

4. レース車両

◎シャシー

車両は、現行車両SF14で実績のあるイタリアのダラーラアウトモビリティ社の設計・製作によるもので、SF14のコンセプト「Quick&Light」を継続しつつ、2016 FIAの安全基準に対応し、空力の見直しにより、さらにオーバーテイクし易くなることで、ドライバー同士のバトルが際立つ、エンターテインメントと競技の両立を目指して開発されました。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※2)に基づき開発した本田技研工業/M-TEC製/HR-417E、トヨタ自動車/TRD製/Biz-01Fを搭載しています。

このエンジンの特徴としては、「燃料リストラクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。

厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※2)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けて決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……………燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

レースを盛り上げる一助として、オーバーテイクシステム(以下OTS)を2009年より採用しています。

このシステムは、スーパーフォーミュラが始めた仕組みで、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムです。

このシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストラクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げることができます。(※3)ステアリングにあるボタンを操作し、1大会上限100秒の時間制使用可能となります。ただし、使用回数は任意ですが、OTS作動後に100秒間のインターバル(使用制限)を設けています。使用中は、ドライバーのヘルメット後方にあるランプ(オーバーテイクランプ=OTL)が点滅し、観客からも視認できるとともに、リアコーションランプが連動して後方のドライバーからも視認することができます。

また、OTS使用可能時間をOTL自体の色でわかりやすく表示いたします。

●OTLのカラー

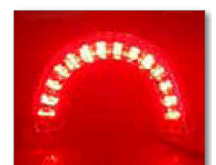
- ・残り100秒から20秒までは、グリーンの常灯
- ・20秒未満は、赤の常灯
- ・0秒で、消灯
- ・OTS作動時は、点滅
- ・100秒間の使用制限中は、スロー点滅
- ・OTS作動時は、リアコーションランプが連動



SF14用(左) SF19用(右)



残り100秒→20秒



残り20秒→0秒

(※3)オーバーテイクシステムの効果について

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 1大会上限100秒の時間制使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。

SF19用に新たに開発された2019シーズンタイヤは、フロントタイヤをこれまでより20mm広げ構造自体も変更し、さらに性能が向上いたしました。

2018シーズンより、全戦で「ソフトタイヤ」「ミディアムタイヤ」の2スペックタイヤ制が導入され、チーム戦略の多様性をもたらし、エキサイティングなレース展開を演出しています。